



# 富山大学学報

第35号 (昭和37年10月)

## 目次

関係法令	1
学内規程	1
人事異動	2
総合情報	
学生募集要項	2
第19回全国文理学部長，事務長連絡協 議会	2
短大文化祭	3
日本鑄物協会秋季全国大会	3
日本雪氷学会	3
高分子学会北陸支部研究発表講演会	4
黒田国光堂社長等の来学	4
レクリエーション	
全国公務員レクリエーション共同事業	4
職員家族大運動会	4
日誌	4
職員住所・改姓	6
追録	
中沖元教授に名誉教授の称号授与	6

## 関係法令

### 規 則

人事院 1-1 規則の分類の一部を改正する規則	37. 10. 1 官報
2-3 人事院事務総局の組織の一部を改正する規則	37. 10. 1
9-13 退職者の給与の一部を改正する規則	37. 10. 1
13-2 勤務条件に関する行政措置の要求に関する審査の手続の一部を改正する規則	37. 10. 1
13-3 災害補償についての審査の申立てに関する規則	37. 10. 1
13-4 給与の決定に関する審査の申立てに関する規則	37. 10. 1

14-3 職員団体の登録の変更の一部を改正する規則	37. 10. 1 官報
16-0 職員の災害補償の一部を改正する規則	37. 10. 1
16-1 船員である職員の災害補償の一部を改正する規則	37. 10. 1
会計検査院第7号 計算証明規則の一部を改正する規則	37. 10. 20
第8号 会計検査院事務総局事務分掌及び分課規則の一部を改正する規則	37. 10. 20

### 告 示

文部第144号 文部省共済組合運営規則の一部を改正する件	37. 10. 18 官報
------------------------------	---------------

### 官庁報告

人 事 院 昭和37年度国家公務員採用初級試験 第1次試験合格者東海・北陸地方初級試験	37. 10. 27 官報号外
--	-----------------

## 学 内 規 程

### 富山大学文理学部規程の一部改正

富山大学文理学部規程の一部を評議会の議を経て次のように改正する。

昭和37年10月26日

富山大学長 横田 嘉右衛門

付表中、数学専攻課程の専攻科目中選択科目において「数理統計学演習2単位」の次に「測量学2単位」を加える。附則の次に次の附則を加える。

附 則 (昭和37年10月26日改正)

この規程(改正)は、昭和37年10月26日から実施し、昭和37年10月1日から適用する。

### 富山大学工学部規程の一部改正

富山大学工学部規程の一部を評議会の議を経て次のように改正する。

昭和37年10月26日

富山大学長 横田 嘉右衛門

別表(1) 金属工学科，専攻科目中

「理論冶金学2」を「理論冶金学3」に，  
「冶金分析実験2」を「冶金分析実験1」

に改める。

附則の次に次の附則を加える。

附 則 (昭和37年10月26日改正)

この規程(改正)は、昭和37年10月26日から実施し、昭和37年10月1日から適用する。

人事異動

現 官 職	氏 名	異 動 内 容	発令月日	発令庁
日赤医師	種 井 清 吉	学校医（富山大学庶務課）に委嘱する	37. 7. 1	富山大学
〃	西 野 静 雄	〃	〃	〃
文部事務官（経済学部）	野 上 文 雄	辞職を承認する（休職中のもの）	37.10.17	〃
事務員（工学部）	島 田 和 子	辞職を承認する	37.10.31	〃

総合情報

昭和38年度学生募集要項

1. 募 集 人 員

文 理 学 部	
文 学 科	40名
理 学 科	60名
教 育 学 部	
第一中等教育科	75名
第一初等教育科	90名
経 済 学 部	
経 済 学 科	160名
薬 学 部	
薬 学 科	80名
工 学 部	
電 気 工 学 科	40名
工 業 化 学 科	60名
金 属 工 学 科	40名
機 械 工 学 科	50名

2. 出 願 期 限

昭和38年 { 2月11日 (月) から  
2月20日 (水) まで

3. 検 査 日 割 及 び 時 間 表

月日(曜)	検 査 教 科	時 間
3月23日(土)	点呼 (学力検査場において)	午前 8 時 30 分 ~ 〃 9 時 (30分間)
	国 語	午前 9 時 ~ 〃 10 時 30 分 (90分間)
	社 会	午前 11 時 ~ 午後 零 時 30 分 (90分間)
	数 学	文科系 午後 1 時 30 分 ~ 〃 3 時 30 分 (120分間) 理科系 午後 1 時 30 分 ~ 〃 4 時 (150分間)

3月24日(日)	外 国 語	午前 9 時 ~ 〃 10 時 30 分 (90分間)
	理 科	文理, 教育, 経済, 薬学部 午前 11 時 30 分 ~ 午後 1 時 (90分間)
		工学部 午前 11 時 30 分 ~ 午後 2 時 (150分間)
		午後 1 時 40 分 ~ 音楽, 美術(実技検査のみ) 保健体育の筆答試問および実技検査 午後 1 時 30 分 ~ 健康診断 (本学において指定された者のみ)(工学部は午後 2 時 30 分 ~)

4. 検 査 場 所

学力検査, 健康診断とも各自が入学を出願する学部の検査場において受験すること。

文理学部検査場	(富山市五福)	文 理 学 部
教育学部検査場	(富山市五福)	教 育 学 部
経済学部検査場	(富山市五福)	富山工業高等学校 (学力検査)
	(富山市五福)	経 済 学 部 (健康診断)
薬学部検査場	(富山市窪町)	奥田中学校 (学力検査)
	(富山市奥田)	薬 学 部 (健康診断)
工学部検査場	(高岡市古定塚)	工 学 部

5. 合 格 者 発 表

昭和38年 4 月 1 日 (月)

第19回全国文理学部長および事務長連絡協議会

この協議会は, 本学が当番校となって文理学部を会場として, 10月25, 26の両日開催された。

また, 事務長の事務協議会も同時併行して別室で行なわれた。出席者は学部長, 事務長のほかに若干の庶務, 会計係長が事務長の補佐役としてこれに加わった。

なお, 本省から村山大学課長が臨席した。

また協議題は次のとおりであった。

1. 各大学における文理学部改組のその後の状況について (島根)
2. 中教審の答申と文理学部改組問題の進め方について (弘前)

3. 一般教育の組織を如何にすべきか (弘前)
  4. 一般教育の全国研究会の必要性について (島根)
  5. 文理学部教官研究費の増額要望について (信州)
  6. 教官の受持時数について (島根)
  7. 就職あっせんの方法について (ノ)
- 協議会は25日1日で終わり、同日氷見朝日山上にある誉一山荘で宿泊、翌26日は有峰ダムを見学して、16時過ぎ解散した。

## 短大文化祭

経営短期大学部は昭和34年4月併設されてから4年目、ことし第1回の卒業生を送り出したのであるが、これを完成の年として、記念文化祭が10月16、21日の2日間開催された。

第1日の16日には、特に、松村謙三氏を迎えて“最近の国際経済情勢について”なる演題の講演会を黒田講堂で開いた。学生がおもな千人に近い聴衆のうちには、年輩の外来者も少なからず見受けられた。

松村氏の講演の要旨は、同氏が5月と9月に訪れた欧州及び中国の視察を基にしたものであった。即ち、EECの現状と将来に説き及んで、英国はもとより、全欧をその圏内におさめ、経済活動の鵬翼をアフリカに伸ばし、世界を大きく三分する一大経済圏を形成し、進んで欧州の政治的統合にも及ぼんとしている。これはナポレオンの武力制覇もなし得なかった偉業であるとした。

また、中国の三年つづいた農業不作は、ソビエトに倣った農業政策や、技術指導のとり入れ方に誤りがあったため、これは寧ろ日本の農業指導にまつべきものだと、この点からも日中貿易が必要であり、日本の技術、肥料の導入をもってこの窮状を救済すべきであると説いた。

最後に、学生諸君は自己本位、自国本位なものの考えを捨て、世界的視野に立つ国民となるべきであると結んだ。

なおこの日は、この講演の前に、詩吟、ヴァイオリンの合奏、演劇などの催しがあったほか、講堂前でパーベキューの催しがあって数々の売店は千客万来の賑いを呈した。

第2日の21日も、ダンスパーティを開いて記念祭を楽しんだ。

## 日本鋳物協会秋季全国大会

日本鋳物協会では、本年度秋季大会を高岡を中心として鋳物工業の盛んな富山県を選んで開くこととなり、会場は文理学部を主会場に、五福地区の校舎を使用して、次の日程で4日間にわたり多彩な催しを行なった。これには、全国の大学や会社工場から鋳造の学者、技術者、業者等約500名が参集して、大学で行なわれた会合、催しとしては、曾つてない規模のものとなった。これの誘致から世話役は養田教授が勤めた。

行事を挙げれば次のとおりである。

## 講習会

10月8日 (文理学部2番教室)

講習課題 “最近の鋳型材料及び造型法”

## 講演大会

10月9日

第1会場 (黒田講堂)

第2会場 (文理学部2番教室)

第3会場 (文理学部1番教室)

第4会場 (ノ 3番教室)

第5会場 (経済学部1番教室)

## 展示会

10月8日～10日

第1展示会場 (教育学部講堂)

第2ノ (全上北側空地)

第3ノ (文理学部6番教室)

これ等会場は日本鋼管、昭和電工、川崎製鉄などの一流会社はもとより、地元、全国各地のメーカーからの出品で飾られた。

## 臨時総会

10月9日午前 (黒田講堂)

## 北陸支部創立15周年記念式

10月9日午後 (黒田講堂)

## 名人古老の秘法体験を聞く会

10月10日 (黒田講堂)

## 鋳物師資料作品展

10月8日～10日 (黒田講堂貴賓室)

## 映画“躍進する鋳物工業”

10月10日 (黒田講堂)

なお文理学部7番教室は、会期中、高岡の装飾用鋳物製品の即売場にあてられ遠来の参会者の土産に備えた。

## 日本雪氷学会

本年度日本雪氷学会全国大会は、10月3日から3日間、文部省災害科学の総合的研究雪氷分科会と、北日本新聞社共催のもとに、文理学部を主たる会場として開催された。これには、畠山同会副会長、吉田北海道大学低温科学研究所長を初め北大、北海道学芸大、新潟大、本学などの教官のほか、気象、建設、電力関係から、雪氷研究の権威など約100人が参加した。

## 会の日程は

10月3日 研究発表 文理学部1番教室

北海道学芸大 渡辺善八氏ほか30数名

4日 研究発表(午前)

北大低温研究所吉田順五氏ほか10数名

雪害対策シンポジウム(午後)

5日 黒部第4発電所ダム見学

で、研究発表会、シンポジウムの司会はすべて、文理学部の小笠原教授がつとめた。なお、第1日の研究発表会には、教育学部の深井三郎助教授が“飛騨氷期における氷河の性質について”なる研究発表を行なった。

### 高分子学会北陸支部研究発表講演会

この会は金沢、福井、新潟の各大学の工学部教官、倉敷レイオン、旭化成の工場長、技術者などのほか、本学からは野路工学部長、蜷川教育学部教授が加わって、10月5日文理学部を会場として行なわれた。

この会で野路教授は

“アセチレンジライコールの赤外線吸収曲線について”  
および

“6.9—ジ—n—アミルトラドデシン—6.9—ジオールの合成”

なる研究発表を、また、蜷川教授は

“尿素—アセトアルデヒド反応の初期生成物について”  
なる研究発表を行なった。

なお、このあとの特別講演会では、野路教授は、

“高分子学会北陸支部10年の歩みとその高分子工業について”

なる講演を行なった。

### 黒田国光堂社長等の来学

黒田国光堂社長夫妻、及び、東京において国光堂製品を売捌く商店主をもって組織する、東京コクヨ親交会の一行23名が、北陸旅行の途次、10月2日11時頃来訪、黒田講堂ほかを見学した。

### レクリエーション

#### 全国公務員レクリエーション共同事業

##### 釣大会

この釣大会は、こんど初めてこの事業に加わった種目である。10月3日県下で川釣りの絶好の場所となっている、新湊堀岡地区で行なわれたが、参加者は11機関114名の多きに達した。

その成績は

団体優勝 郵便局  
次勝 大学

また個人優勝も郵便局のものとなつた。

#### 職員家族大運動会

この運動会は、10月13日(土)午後1時から五福のグラウンドで行なわれた。このような運動会はこれまで、職員組合で行なっていたものであるが、公けに大学の職員レクリエーション行事として行なわれたのは、これが初めてであ

る。そして、職員の家族を招いたのも初めての試みである。

競技に参加した者は延150人に及んだし、競技に参加しなくとも、観戦応援に馳せ参じた職員や教官やその家族を併せると、本学のこの種の催しとしては空前の規模となった。

種目のうちでも“泡くいレース”“樽ころがし”“綱ひき”“年令別部局対抗リレー”などが人気を呼んだし、退職者を交へた来賓の“お掃除は上手”の競技も爆笑を惹き起し、喚声と拍手は集中建設で簇立する校舎にこだまして和やかなふんいきを盛り上げた。かくて、この第1回の試みは成功裡に、夕陽うすらぐ頃、学長のあいさつをもってその幕を閉じた。

### 日誌

#### 本 部

- 10月2日 黒田国光堂社長、他23名来学
- 3日 日本雪氷学会(長谷川福井大学長来学)
- 5日 緒方日本育英会理事長来学
- 6日 学術調査団(第2次)出発
- 8日 日本鋳物協会秋季大会(10日まで)  
全国産業教育振興連絡会議富山大会(9日まで富山市公会堂において)に出席の福田文部省初等中等教育局長および元文部次官の剣木氏来学
- 11日 会計係長会議  
学術調査団帰還
- 12日 元会計課長松原松之丞氏慰労会
- 13日 職員家族大運動会
- 16日 経営短期学部第1回文化祭  
この催しである講演会に松村謙三氏来学講演
- 18日 東海北陸地区庶務部課長会議(三重大学)
- 25日 学生相談室開設
- 31日 東海北陸地区学生部課長会議(福井大学)

#### 文 理 学 部

- 10月3日 全国雪氷学会(2番教室)
- 5日 高分子学会(1番教室)(6日まで)
- 7日 陸水学会
- 8日 日本鋳物学会(10日まで)
- 9日 学部補導委員会  
教授会  
人事教授会
- 17日 文理図書委員会
- 18日 全国文理学部長会議打合せ会  
人事教授会

- 22日 学内会計事務監査  
 24日 学部長東南アジア出張から帰着  
 教授会  
 人事教授会  
 25日 全国文理学部長連絡協議会  
 全国文理学部事務長事務協議会  
 (特別参加, 文部省 村山大学課長)  
 26日 全上会議第二日  
 有峯ダム見学

教 育 学 部
---------

- 10月1日 教務, 補導合同委員会, 臨時教授会  
 5日 教授会, 日本教育大学協会北陸地区第二部会  
 英語科研究協議会 (信州大学)  
 6日 後学期授業開始  
 8日 日本教育大学協会北陸地区第二部会, 教育,  
 心理, 研究協議会 (信州大学) (9日まで)  
 10日 全国国立教員養成学部事務長協議会 (三重大  
 学) (11日まで)  
 12日 補導委員会, 人事教授会, 選考委員会  
 15日 教務委員会  
 17日 教授会  
 18日 日本教育大学協会北陸地区第一部会 (信州大  
 学) (19日まで) 職業補導委員会  
 19日 教務, 職業補導合同委員会  
 21日 学窓会総会  
 22日 教務, 職業補導合同委員会  
 23日 会計事務監査  
 24日 附属学校長選考基準検討委員会  
 補導委員会  
 27日 日本教育大学協会北陸地区第二部会, 保健体  
 育科研究協議会 (信州大学松本分校) (28日  
 まで)  
 29日 人事教授会  
 31日 職業補導委員会

経 済 学 部
---------

- 10月8日 専門課程進学者オリエンテーション  
 後期授業開始  
 9日 職業補導委員会  
 11日 教務委員会  
 人事教授会  
 教授会 (第11回)  
 19日 学部図書委員会  
 23日 職業補導委員会  
 25日 教授会 (第12回)

薬 学 部
-------

- 10月2日 人事教授会  
 6日 3年次前期末試験終了  
 8日 カリキュラム委員会 (9日まで), 追再試験  
 開始 (12日まで)  
 10日 教授会  
 11日 国立大学薬学部事務長会議 (金沢大学)  
 12日 2年次前期末試験開始 (16日まで)  
 13日 追再試験終了  
 16日 教授会  
 18日 人事教授会  
 20日 2年次学生オリエンテーション  
 学部レクリエーション (加賀 手取峡)  
 22日 後期授業開始  
 26日 文部省村山大学課長来部  
 29日 会計事務監査

工 学 部
-------

- 10月11日 教授会  
 15日 第2年次オリエンテーション  
 16日 文部省第一予算班平間係長ほか2名施設視察  
 のため来部  
 24日 文部省村山大学課長施設視察のため来部  
 31日 教授会

附 属 図 書 館
-----------

- 10月5日 目録研修会  
 10日 昭和37年度国立大学図書館研究集会及び第8  
 次全国国立大学図書館長会議 (大阪大学)  
 (12日まで)  
 12日 目録研修会  
 18日 目録研修会  
 25日 会計事務学内監査 (本館)  
 26日 目録研修会  
 30日 第3回図書館商議会  
 会計事務学内監査 (薬学分館)

経 営 短 期 大 学 部
---------------

- 10月1日 後学期授業開始, 専任教官会議 (12回)  
 6日 日本育英会昭和37年度秋季北陸信越地区大学  
 事務協議会 (経済学部会議室)  
 9日 昭和38年度大学入学者選抜実施要項趣旨徹底  
 協議会 (京都大学)  
 11日 国立短大主事, 事務長会議 (山形大学工業短  
 大) (12日まで)

- 16日 経営短大完成記念第1回文化祭，第1日  
経済講演会（講師松村謙三氏）その他
- 21日 文化祭第2日 ダンスパーティ
- 26日 学内会計監査

~~~~~  
職員住所・改姓  
~~~~~

**新任者**

文理学部

講師 奥貫 晴弘

教育学部

助教授 藤井 敏孝

工学部

事務補佐員 尾守 成子

**転居**

事務局

技官 安間 基

技能員 森田 タミ子

文理学部

講師 上野 英雄

**改姓**

事務局

技能員 森田 タミ子（旧姓 沖）

~~~~~  
追 録  
~~~~~

**中沖元教授に名誉教授の称号授与**

中沖太七郎元薬学部長は，昭和37年3月31日限り停年退職されたことは学報第28号で報じておいたが，4月27日付で次の称号記が授与された。

称号記

中 沖 太 七 郎

学校教育法第68条の2により富山大学名誉教授の称号を授与する。

昭和37年4月27日

富 山 大 学

昭和37年12月15日

印刷所 安倍印刷KK

TEL ② 5 1 5 0